2026 年 11 月 6 日
ライオン株式会社

2026 年度 第 3 四半期決算説明会
アナリスト質疑応答（要旨）

【通期の業績見通しについて】

Q：7-9 月は当初の減益想定を上回り増益になったとのことだが、その要因は？ 通期の業績見通しについては？

A：国内外でオーラルヘルスケアの高付加価値品が伸長しミックスが改善したことに加え、海外で値上げが想定以上に進んだこと、また、国内では一部卸店で出荷価格改定前の仕入れ増もあり、想定を上回る増益となりました。4Q については、出荷価格の引き上げに伴う数量影響や原材料価格の高止まり、再上昇の影響など一定のリスクが想定されるため、通期の業績は年初予想どおりの着地を見込んでいますが、達成確度は高まっています。

Q：10 月の出荷価格改定に関する進捗は？ 数量への影響は生じているか？

A：総じて順調な進捗であり、店頭価格への反映も順次進んでいます。数量への影響については、カテゴリーによって差はあるものの、オーラルヘルスケアなど競争力の高いカテゴリーでは想定したほどの影響は出ておらず、全体としては想定の範囲内に収まっています。

Q：EBITDA マージンの改善が加速した背景は？

A：中東情勢の影響で年初に想定していなかったコストアップがありましたが、価格改定や売上ミックスの改善、プロモーション費用の効率化など打ち返し施策が順調に進捗し、収益基盤の強化につなげることができています。今年からビジネスユニット制に移行し、バリューチェーンを一気通貫して管理するようになり施策を機動的に進められるようになったことがプラスに効いています。これらにより EBITDA マージンの改善は想定以上に進展しており、中計目標を 1 年前倒しで達成に近い水準まで引き上げることができています。

【海外事業について】

Q：3Q は対前年同期比で大幅な増益となったが、要因は？

A：新規連結国の寄与に加え、既存国でも収益性の改善が進みました。収益性の高いオーラルヘルスケア、ビューティケアの構成比が高まるなどカテゴリーミックスの改善や、洗濯用洗剤での粉から液体へのシフトなどカテゴリー内ミックスの改善も進んでいます。

Q：タイでは輸出の減少により実質での減収が続いていたが状況は？

A：昨年下期以降、地政学的な影響により周辺国への輸出減少の影響を大きく受けていましたが、四半期ごとに輸出の減収幅が縮小してきたことに加え、国内においてオーラルヘルスケア、ビューティケアなどパーソナルケア分野の強化施策が奏功し、モメンタムは改善しています。

【来期の業績について】

Q：足元では原材料価格が再び上昇しているが、来期の業績に対する原材料価格の影響は？

A：今の市況水準が続けば、今年の下期と同程度の原材料価格の影響が来年上期まで継続すると見ています。現在取り組んでいる出荷価格改定による効果が来年上期まで継続して寄与することに加え、オーラルヘルスケアを中心とした高付加価値化によるミックスの改善、販促費の効率化などを通じて打ち返しを図り、中計最終年度の事業利益目標 400 億円の達成を目指します。

以上

【注意事項】

本資料で記述している内容は、決算説明会の質疑をもとに要約した当社の見解であり、その情報の正確性、完全性を保証するものでなく、今後、予告なく変更される可能性があります。

また、将来予測や業績見通しなどに関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を約束する趣旨のものではありません。

そのため、様々な要因の変化により実際の業績は記述している将来見通しとは大きく異なる可能性があることを御承知おき下さい。